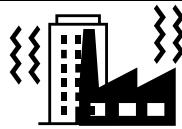


テーマ：BCP策定を通じた信用力向上

タイトル：本部・工場別のBCP策定により、取引先からの信用力向上



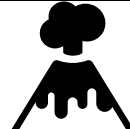
地震



水害



火災



噴火

ポイント

- 立地条件が異なるため、管理本部・6か所の工場別にBCPを策定
- 本部・工場別のBCPを策定したことで、取引先からの信用力が向上

BCP策定のきっかけ

- 同社は1971年に設立し、金属・非鉄金属の加工を始めとし、セラミックなどの素材加工まで出来る技術を有している。
- 策定は、鹿児島県中小企業同友会の代表理事でもある、上田平代表取締役社長のリーダーシップによるところが大きい。災害時でも人命を優先させるために計画策定の必要性を感じていたことに加え、同友会でBCPIに関する話題が出ていたこともあって策定を決断。加えて、同社の取引先には、取引先のリスク管理も求める一部上場企業が多く、これら企業からBCP策定の有無を問われたことも背景としてある。

BCP策定時の課題と解決方法

- 策定時の課題としては、本部・工場別にBCPを策定しようとした点。非常に難儀した。
- まず、それぞれの立地条件が異なっており、例えば、川内工場は川沿いに立地している一方で、桜島の降灰の影響を受ける場所に立地している工場もあり、ハザードマップや災害情報の収集が工場毎に必要であった。
- また、6か所の工場で製造している部品も違うため、優先的に対処すべき中核事業や、取引先にも違いがあるため、一つにまとめることができなかった。
- このため、策定には、公益財団法人かごしま産業支援センターの専門家派遣事業を活用した他、鹿児島県の「中小企業経営バックアップ事業補助金」も利用。これにより、2020年4月～11月の8か月間に亘り、月1回専門家を招いた上で、各工場と管理本部の部門長が管理本部に集まって検討。部門長は、毎月、BCPに関する内容をそれぞれ作成したものを持ち寄り発表、それを聞いた専門家が添削する形で進めた。

策定した内容

- まず、対象災害を特定した上で、中核事業、災害が起きた際の影響度・目標復旧時間などを決定。また、災害発生時の対応フローとして、以下の段階に応じた手順書を策定。
 - ①事前対応：災害発生情報をメディアから入手するなどの事前対応。
 - ②初動対応：災害が発生し、被災により事業が中断した場合の対応（社員の安否確認、社員の招集、被災状況の確認、二次災害の防止）。
 - ③BCP発動：初動対応状況を踏まえ、復旧に関する情報を整理した上で、復旧活動開始の号令を発動。
 - ④復旧活動：中断した事業を、目標復旧時間内に復旧させるための顧客対応、協力会社対応、社員対応、資材対応、設備対応、財務対応といった諸活動。
- 現在、管理本部や一部の工場で、避難訓練を実施。今後は、全社で実施することを計画。
- また、社員にBCPの意識を植え付けるため、勉強会を月1回程度開催する他、各部署で業務の繁忙期が異なることを踏まえ、空いた時間で視聴できるようDVDによる研修も実施している。さらに、被災時の対応方針を示した携行カードを従業員に配布。従業員の安否確認が最も重要であり、非常時に誰がどの活動に参加できるかを瞬時に確認できるかどうかを早期復旧の鍵と考えている。
- この他、非常時の防災道具や備蓄品を揃えつつある状況。

BCP策定後の効果

- 本部・工場別のBCPを策定したことで、取引先からの信用力が高まったと考えている。今後、受注拡大につなげることで付加価値額の増加を目指していきたい。また、策定したことで、社員の雇用維持及び社員家族の安全確保による社員満足度の向上につながったものと考えている。



本社第一工場



志布志工場

会社名 _____ 携行カード お願ひこのカードを拾得された方は下記までご連絡下さい。 所在地 〒 _____ 電話 _____ FAX _____		連絡先 (電話番号、携帯電話、携帯メール)
緊急時の行動		自宅電話番号 _____
地震	①火の元を絶つ ②揺れが強く大きく揺れたら高台に逃げる ③震度5強で会社に自動参集	家族① 通勤通学先 携帯 家族② 通勤通学先 携帯 家族③ 通勤通学先 携帯
風水害	①気象情報に注意 ②重箱や食糧等を2階へ移動 ③警報が出たら避難の準備	地域外に住む親戚 (電話転替時に家族全員が連絡) 社長 _____ 上司 _____
火災	①大声で周囲に知らせ119番 ②初期消火火が天井まで広がったら避難 ③煙に注意、口に濡タオル、姿勢低く	社内緊急連絡網の連絡相手 社内緊急連絡網上記不在時の相手 重要取引先① _____ 重要取引先② _____ 重要取引先③ _____ 重要取引先④ _____
本人情報		災害伝言ダイヤル 171
氏名	_____	
血液型	_____	
持病・アレルギー	_____	
かかり付け医師	_____	
就業時の避難場所	_____	
自宅近くの避難所	_____	

携行カード

【会社概要】

企業名：株式会社南光
 所 在：鹿児島県鹿児島市七ツ島2-1
 資本金：1億円
 従業員数：220名
 業 種：金属製品製造業
 企業HP：<http://nanko.co.jp/>

活用施策

- ・ 事業継続力強化計画
- ・ (公財) かがしま産業支援センターの専門家派遣事業
- ・ 鹿児島県の中小企業経営バックアップ事業補助金

～本事例集掲載後の取り組み・効果と専門家派遣事業の活用～

本事例集掲載後の取り組み・効果

●防災のための設備や物資の備え、訓練の取り組み状況

1メートル程度の内水氾濫が発生すると想定しているの、それに耐えうる止水板を自社で作成。先日の台風10号上陸の際には事前対策として活用した。

データのバックアップについては、M I C（株）南日本情報処理センター）を活用してデータを保護。大規模災害発生時に電話が繋がりにくくなった場合に、音声メッセージとして伝える「災害用の音声お届けサービス」を導入した。

飲料メーカーの協力で、社内に設置している自動販売機の隣に商品補充としても防災用品としても活用できる飲料ストックを設置。災害時対応の自動販売機であるもののそれだけでは不足する可能性もあり、より多くの飲料を防災用として備えることができています。

鹿児島県防災研修センターで防災にまつわるDVDを借りて勉強会を開いたり、本社で避難訓練を行った。

●本事例集に掲載後の効果

噴火を想定したBCPを策定している他社の事例を学びたいということで、トヨタ自動車（東富士研究所）の職員が（株）南光を訪問した。（株）南光とトヨタ自動車（東富士研究所）との直接的な繋がりはなかったが、当局が作成したBCP事例集をきっかけに（株）南光を知り、訪問に至ったとのこと。事例集への掲載がきっかけで、新たな関係性を構築することもできた。



止水板を設置している様子
台風10号上陸の際にも活躍した



飲料ストックを自動販売機の隣に設置
災害時には防災用としてストックにある飲料も飲める

専門家派遣事業の活用

●専門家派遣事業の活用に至るまで

令和5年度に、鹿児島県（かごしま産業支援センターに委託）が主催した台風時の対応に係るセミナーに総務課長が参加。セミナーの内容が非常に良かったのでその内容を社内で展開したところ、「自分たちの意見が言えるワークショップの機会も設けてほしい」と社員から声が上がった。そこで、社内でBCPの見直しも兼ねた机上訓練を防災ワークショップとして行うこととし、その中でかごしま産業支援センターの専門家派遣事業（専門家派遣にかかる費用の2/3を同センターが補助）を活用し、専門家の意見も交えながらより効果的に進めようと考えた。

●専門家派遣事業の内容

現在、災害発生時の早期復旧を実現するための社員教育と運用体制に関するノウハウの蓄積、机上訓練を行うためのシナリオ作成に取り組んでいる。机上訓練シナリオ作成の中で、「階層別の対応方針」も必要であることがわかり、BCPのブラッシュアップにもつながっている。

また、専門家の助言で工場の掲示板に避難場所までの経路図等を貼り、BCPを職員へ浸透させている。公的機関の支援策を有効活用することで、BCPに係るコストをおさえることができています。



掲示板に避難経路を貼り出している



専門家派遣事業の勉強会の様子

支援機関の声

公益財団法人

かごしま産業支援センター

鹿児島県内中小企業の創業・経営革新・研究開発・販路取引拡大・デジタル化など総合的な支援策を展開する団体

◎派遣サポートをされている専門家のお話

BCPは計画作成が目的ではなく、あくまでもBCPは計画（Plan）なのでそれを実践（Do）、確認（Check）、見直す（Action）必要があります。今回の取組は、いつ起きるか分からない地震に対して自社のBCPが対応できるか実践するものです。実践できれば、確認と見直しもできます。BCPを策定した事業者様には机上訓練をしていただきたいと思います。



専門家
向江 隆行さん